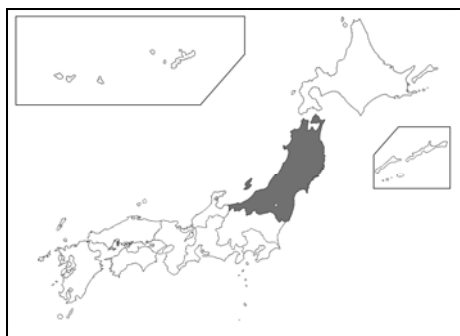


(2) 東 北



東北地域では、景気は回復している。

- ・ 鉱工業生産は増加している。
- ・ 個人消費は増加している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

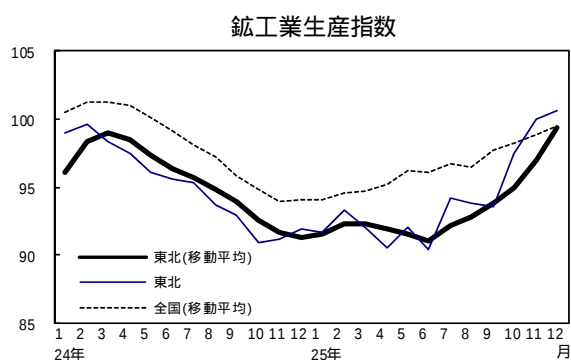
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 25 年 11 月)	今回 (平成 26 年 2 月)	
景況判断	緩やかに回復	回復	↑
鉱工業生産	持ち直し	増加	↑
個人消費	緩やかに増加	増加	↑
雇用情勢	改善	着実に改善	↑

1 . 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は増加している。

10～12 月期には、電子部品・デバイスは、アジア向けにスマートフォンやタブレット用の部品が好調だったこと等から増加した。はん用・生産用・業務用機械は、海外、国内ともに半導体製造装置の受注が増加したこと等から増加した。食料品・たばこは、たばこ等で増加した。情報通信機械は、デスクトップ型パソコンやノート型パソコンが法人向けに好調だったこと等から増加した。輸送機械は、シャシー・車体部品等が低調だったこと等から減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7～9 月期	10～12 月期	10 月	11 月	12 月
電子部品・デバイス	16.9	7.4	5.2	8.4	▲2.4	1.3
はん用・生産用・業務用機械	14.7	2.3	20.0	5.7	18.8	4.1
食料品・たばこ	10.6	0.7	0.8	1.6	2.4	▲1.6
情報通信機械	9.2	8.9	5.5	1.4	1.2	▲1.2
輸送機械	8.3	6.5	▲0.1	▲2.6	▲1.7	2.7
鉱工業	100.0	3.2	5.9	4.2	2.6	0.6

(備考) 1 . 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

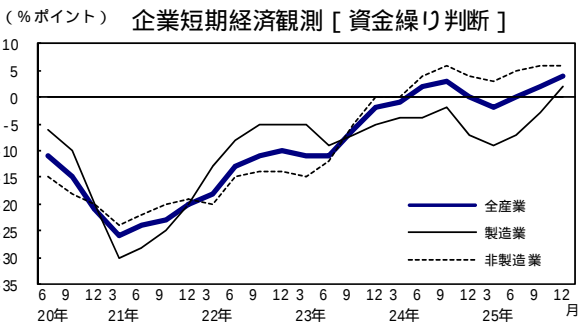
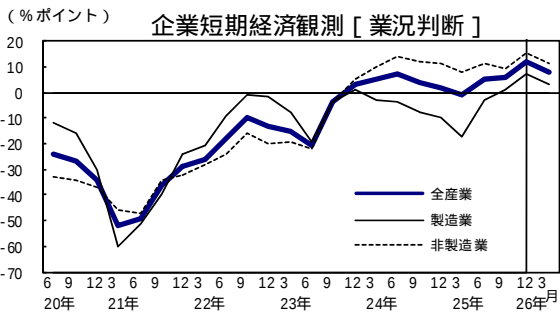
2 . 10～12 月期、12 月は速報値。

(備考) 1 . 22 年=100、季節調整値。東北の最新月は速報値。

2 . 全国及び東北の太線は後方 3 か月移動平均。

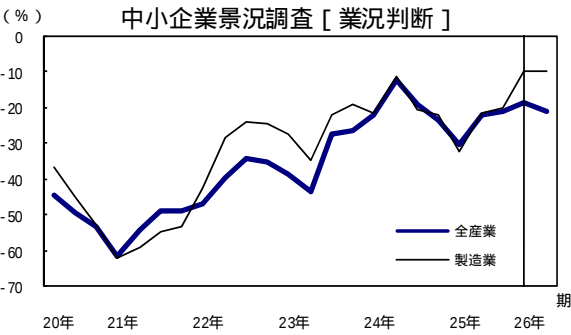
(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ拡大している。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考) 「良い」 - 「悪い」回答者数構成比。26 年 3 月は予測。

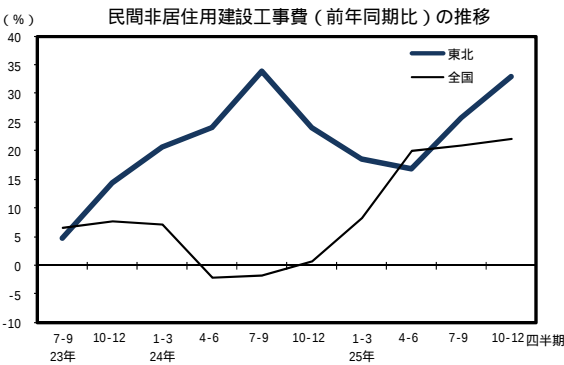
(備考) 「楽である」 - 「苦しい」回答者数構成比。



(備考) 「好転」 - 「悪化」回答者数構成比。26 年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (1 月) [企業動向関連 (現状)]
「輸送のみならず、当地区での設備投資もしくは設備の更新もあり、それに伴って重量品の設置作業も多忙を極めている (輸送業) 」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に増加している。



企業短期経済観測調査 [設備投資 (12 月調査)]		
(前年度比、 %)		
	24 年度実績	25 年度計画
全 産 業	16.5	▲7.7 (0.0)
製 造 業	6.3	▲15.8 (▲3.5)
非 製 造 業	31.4	2.0 (3.6)

(備考) () は前回 (9 月) 調査比修正率。

(2) 東北

2. 需要の動向

(1) 個人消費は増加している。

地域別消費総合指数（RDEI（消費））

10月は前月比0.2%増、11月は同1.0%増、12月は同0.1%減となった。

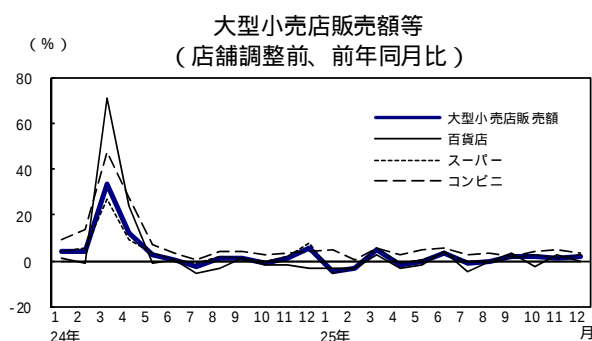
大型小売店販売額

百貨店は、10月は、秋物衣料が不振だったこと等から前年を下回った。11月は、海外ブランドやアクセサリなどが好調だったこと等から前年を上回った。12月は、紳士服のスーツなどが好調だったものの、気温高でコートなどがふるわなかったこと等から前年を下回った。スーパーは、主力の飲食料品で精肉や総菜などが好調だったほか、家庭用品で家電製品などが好調だったこと等から前年を上回った。

景気ウォッチャー調査（1月）[家計動向関連（現状）]

東北地域の家計動向関連DIは、48.3となり前月より0.9ポイント低下した。

「諸々の値上げのなか、収入は増えず火の車である。高単価フレンチはもう駄目かもしれない（高級レストラン）」など、「悪くなっている」とする回答が増加した。

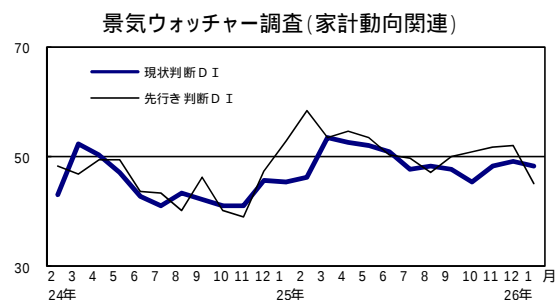
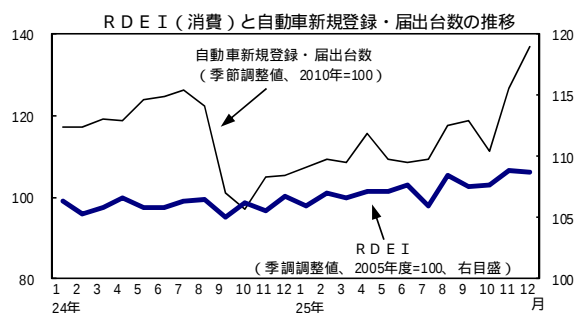


	25年10-12月	25年10月	11月	12月
RDEI（消費*1）	1.0	0.2	1.0	▲0.1
大型小売店(*2)	1.8	1.7	1.5	2.1
百貨店(*2)	▲0.1	▲2.6	2.7	▲0.4
スーパー(*2)	2.2	2.7	1.2	2.7
コンビニ(*2)	4.3	4.2	5.2	3.6
乗用車(*3)	21.1	14.6	19.2	31.5
(季節調整値)(*3)	8.4	▲6.1	13.5	8.2

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

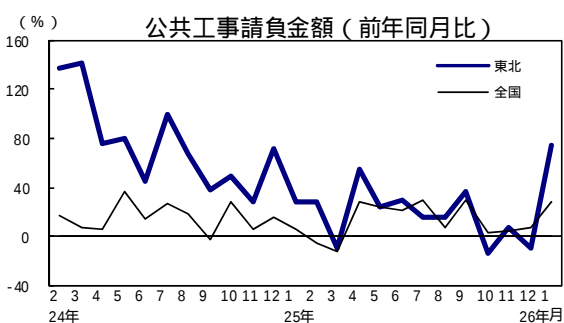
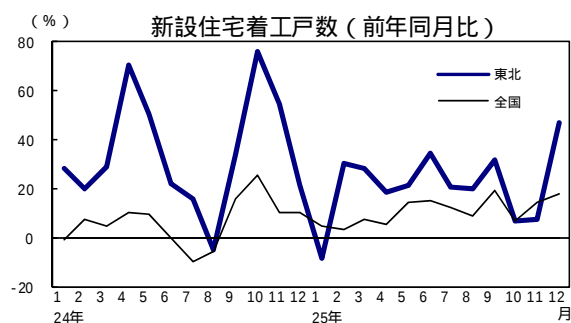
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

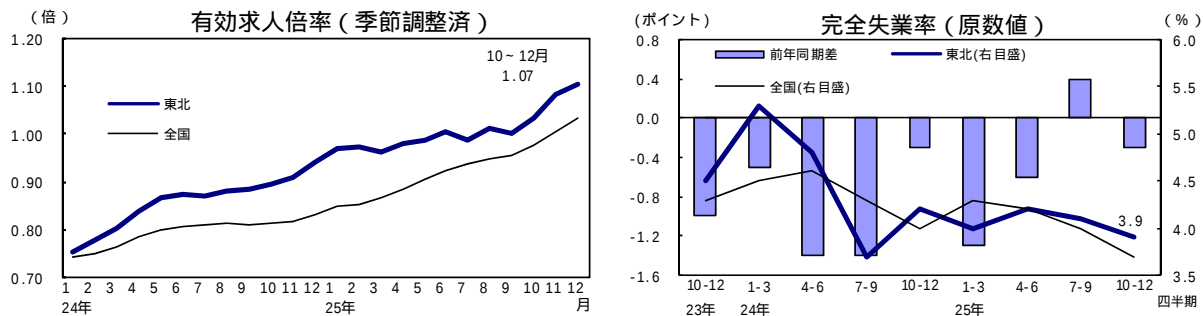
分譲が前年を下回ったものの、持家、貸家が前年を上回ったことから、全体では大幅に増加している。

(3) 公共投資は25年度累計でみると前年度を上回っている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は着実に改善している。
有効求人倍率及び完全失業率
有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



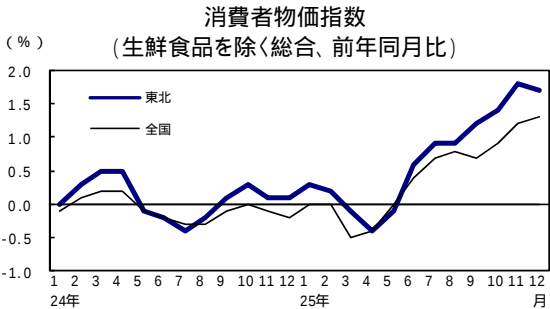
(備考) 24年1 - 3月期から24年7 - 9月期までの前年同期差は、補完推計値を用いて計算した参考値である。

景気ウォッチャー調査 (1月) [雇用関連 (現状)]
「新規採用数が増えてきている。製造業よりも消極的だったサービス業も採用意欲が高まっている。あるホテルは今春、20 人の採用を発表している (新聞社 [求人広告])」などの回答がみられた。

- (2) 企業倒産は、件数はおおむね横ばい、負債総額は減少している。
(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	25年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	26年1月
倒産件数	126	118	113	120	39
(前年比)	0.8	▲4.1	▲3.4	0.0	2.6
負債総額	266	299	195	218	56
(前年比)	▲43.1	▲26.8	▲66.4	▲11.2	▲43.9



- 景気ウォッチャー調査 (1月) [合計 (特徴的な判断理由)]
<現状>
・携帯端末の生産数が頭打ちになっている (電気機械器具製造業)
<先行き>
・4月には消費税率も上がるので、当然消費者は買い控え、わが社でいえば食べ控えをする (一般レストラン)

